

Case : 66

馬蹄形の歩行車でわずかな段差を越えようとして、転倒しそうになる

場面の説明

施設の自動ドアから屋外へ出ようとしたところ、わずかな段差にキャストが引っかかり、前方にバランスを崩した



利用シーン	 移動  外出
主な利用場所	 ドア・自動ドア  段差・縁石
介護保険の種目	 歩行器
分類コード (CCTA95)	120606 (歩行車)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

馬蹄形の歩行車の多くは基本的には段差のない環境で使用する用具です。特に肘で身体を支えるタイプでは重心位置が高く、段差でのつまづきや傾斜路の走行などでバランスを崩しやすく、利用者の身体状況とともに安全に使える環境であるかどうかの確認が重要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：どの程度の段差を通過できるか把握していなかった
 環境：施設と屋外の間になんらかの段差があった